

定期作況報告

(第3号 平成21年7月20日現在)

北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

6月下旬：最高気温は平年より 2.9 高く、最低気温も平年より 1.7 高かった。降水量は平年より 32.5mm 多く、平年対比 241%であった。降水日数は平年より 1 日少なかった。日照時間は平年より 13.4 時間多く、平年対比 125 %であった。夏日（最高気温 25 以上）は 8 日、真夏日（最高気温 30 以上）は 1 日であった。

7月上旬：最高気温は平年より 0.9 低く、最低気温は平年より 1.1 高かった。降水量は平年より 35.2mm 多く、平年対比 211%であった。降水日数は平年より 1 日少なかった。日照時間は平年より 1.4 時間少なく、平年対比 97 %であった。夏日は 5 日、真夏日はなかった。

7月中旬：最高気温は平年より 3.9 低く、最低気温も平年より 2.9 低かった。降水量は平年より 57.5mm 多く、平年対比 196%であった。降水日数は平年より 1 日多かった。日照時間は平年より 2.4 時間少なく、平年対比 94 %であった。夏日は 2 日、真夏日はなかった。

6月下旬から7月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	6月下旬			7月上旬			7月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温()	27.0	24.1	2.9	23.9	24.8	0.9	21.4	25.3	3.9	24.1	24.7	0.6
最低気温()	14.7	13.0	1.7	15.2	14.1	1.1	13.1	16.0	2.9	14.3	14.4	0.1
平均気温()	20.4	18.2	2.2	19.3	19.1	0.2	16.9	20.2	3.3	18.9	19.2	0.3
降水量(mm)	55.5	23.0	32.5	67.0	31.8	35.2	117.5	60.0	57.5	240.0	114.8	125.2
降水日数(日)	2	3	1	2	3	1	6	5	1	10	11	1
日照時間(hr)	66.3	52.9	13.4	44.6	46.0	1.4	34.9	37.3	2.4	145.8	136.2	9.6

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) 印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稲 : やや不良

事由：幼穂形成期は平年に比べ4日遅かった。7月中旬の低温により生育進度はさらに遅れ、止葉期は「ほしのゆめ」「ななつぼし」で平年より5日遅く、「きらら397」は止葉期に達していない。

7月20日現在の主稈葉数はほぼ平年並であった。㎡当たり茎数は「ほしのゆめ」が平年対比96%でやや少ないものの、「きらら397」「ななつぼし」はほぼ平年並に回復した。草丈は平年より10～12cm程度低かった。

以上、主稈葉数および茎数はほぼ平年並であったものの、生育進度が遅れており、草丈が平年に比べかなり低い。また、冷害危険期に低温に遭遇している可能性があることから稔実歩合の低下が懸念される。よって目下の作況は「やや不良」である。

表2 生育期節

品 種 苗	幼穂形成期(月・日)			止葉期(月・日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ほしのゆめ 成苗	6.28	6.24	4	7.16	7.11	5
きらら397 成苗	6.30	6.26	4		7.13	
ななつぼし 成苗	6.28	6.24	4	7.16	7.11	5

注1) 平年値は平成14～20年7カ年のうち平成20年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて「遅」を示す。

3) 幼穂形成期の判定基準：全主稈幼穂長2mm

4) 止葉期：全茎の40～50%の止葉が展開した日

表3 7月20日現在の本田生育

品 種 苗	主稈葉数(枚)			茎数(本/㎡)				草 丈(cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較
ほしのゆめ 成苗	10.3	10.2	0.1	785	814	29	96	63.1	75.6	12.5
きらら397 成苗	11.1	11.2	0.1	823	821	2	100	58.9	70.9	12.0
ななつぼし 成苗	10.4	10.5	0.1	747	758	11	99	69.5	80.1	10.6

注1) 平年値は平成14～20年7カ年のうち平成20年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて「減」を示す。

2) 秋まき小麦 : 平年並

事由：出穂期は平年より5日早かった。6月中旬以降、降水量が多く土壌が湿潤でかつ登熟後半は低温に経過したため登熟がやや緩慢であったが、成熟期は平年より1日早かった。稈長、穂数は平年並である。

したがって、目下の作況は平年並である。

表4 7月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名	出 穂 期 (月日)			成 熟 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
ホ ク シ ン	6.3	6.8	5	7.16	7.17	1

品 種 名	稈 長 (cm)			穂 長 (cm)			穂 数 (本/m ²)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
ホ ク シ ン	85	83	2	7.6	8.7	1.1	682	681	1

注1) 平年値は、前7か年中、平成14年、18年(収穫年度)を除く5か年の平均値。

2) は平年より早を、は平年より減を示す。

3) 春まき小麦 : やや良

事由：7月中旬は低温湿潤となり、登熟はやや緩慢となっている。稈長、穂長はほぼ平年並だが、穂数は平年より多い。なお、6月23日、7月8日の強い降雨により、倒伏が発生した。

したがって、目下の作況はやや良である。

表5 7月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名	稈 長 (cm)			穂 長 (cm)			穂 数 (本/m ²)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
春 よ 恋	87	90	3	8.8	8.4	0.4	587	485	102

注1) 平年値は、前7か年中、平成15年、18年を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。

4) 大豆 : 平年並

事由： 気温が6月下旬は平年より高く、7月上旬は平年並に経過し、生育は回復した。しかし7月3半旬はやや低温に経過したため、開花期は平年より4日遅れた。7月4半旬も低温に経過したが主茎長は平年よりやや長く、主茎節数、分枝数は平年並である。したがって、目下の作況は平年並である。

表6 7月20日の大豆の生育

品 種 名	開 花 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較
ユキホマレ	7.14	7.10	4

品 種 名	主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数 (節)			分 枝 数 (本株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
ユキホマレ	63.4	59.2	4.2	10.6	10.3	0.3	6.0	5.9	0.1

注1) 平年値は前7か年中、平成14年、18年を除く5か年の平均値。

5) 小豆 : 平年並

事由： 気温が6月下旬は平年より高く、7月上旬は平年並に経過し、生育は回復した。しかし、7月中旬は低温に経過し、生育はやや緩慢となった。主茎長は平年並かやや上回り、本葉数は平年をやや下回り、分枝数は平年並か平年を上回っている。したがって、目下の作況は平年並である。

表7 7月20日の小豆の生育

品 種 名	主 茎 長 (cm)			本 葉 数 (枚)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
エリモショウズ	24.1	23.5	0.6	7.6	8.0	0.4	4.4	4.2	0.2
しゅまり	26.0	24.4	1.6	7.3	7.8	0.5	5.6	4.5	1.1

注1) 平年値は、前7か年中、平成15年、平成16年を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。

6) ばれいしょ : やや良

事由：開花始は平年より2日遅かった。7月中旬の気温は低かったが生育は順調であり、茎長、上いも数、上いも平均一個重、上いも収量はいずれも平年を上回っている。でん粉価は平年よりやや高い。なお、徒長気味の生育と数度の強い降雨により、一部に倒伏が見られる。

したがって、目下の作況はやや良である。

表8 7月20日のばれいしょの生育

品種名	開花始(月日)			茎長(cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵いも	6.24	6.22	2	54.7	45.7	9.0

品種名	上いも数(個/株)			上いも平均一個重(g)			上いも収量(kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵いも	10.9	9.0	1.9	85	73	12	4125	2918	1207

品種名	でんぷん価(%)		
	本年	平年	比較
男爵いも	13.9	13.5	0.4

注1) 平年値は、前7か年中、平成16年、19年を除く5か年の平均値。

2) 上いも数以下は、試し掘りの値である。